2022年度 庶務報告

〔１〕会員異動

2022年度末における会員総数は7,764名である。

内訳　医師6,484名、歯科医師68名、薬剤師677名、鍼灸師448名、研究職23名、
看護師会員12名、特別会員35名、学生会員16名、賛助会員169名。

2022年度中の新入会員は255名、退会者は430名であった。

〔２〕会議

2022年度における会議は次のとおり行われた。

理事会　　１３回（内書面審議７回）
社員総会　　１回

各委員会における会議開催は、それぞれの委員会の事業報告に記載した。

〔３〕各支部との交流

北海道支部会（Web開催）
2022年10月23日（日）
東北支部会（Web開催）
2022年10月30日(日)
関東甲信越支部会（ハイブリッド開催）
2022年11月6日（日）
佐藤寿一理事講演
東海支部会（ハイブリッド開催）
2022年11月13日（日）
伊藤隆会長講演

北陸支部会（ハイブリッド開催）
2022年10月16日（日）
田原英一理事講演
関西支部会（ハイブリッド開催）
2022年10月23日(日)
山岡傳一郎理事講演
中四国支部会（Web開催）
2022年11月6日（日）
九州支部会（ハイブリッド開催）
2022年11月27日（日）
山岡傳一郎理事講演

2022年度 事業報告

機関誌発行事業

〔１〕編集委員会（担当理事：貝沼茂三郎、委員長：植田圭吾）

１．学会誌を下記の通り発行した。

第73巻別冊号	2022年5月
第73巻第２号	2022年4月
第73巻第３号	2022年7月
第73巻第４号	2022年10月
第74巻第１号	2023年1月

２．『TRADITIONAL & KAMPO MEDICINE』を下記のとおり発行した。

Volume9　Issue1　2022	2022年4月
Volume9　Issue2　2022	2022年8月
Volume9　Issue3　2022	2022年12月

３．2022年4月4日、5月5日、5月23日、6月2日、7月1日、8月10日、9月1日、10月24日、11月14日、2023年1月27日、3月7日、3月22日の計12回委員会（メール会議を含む）を開催した。

４．TRADITIONAL & KAMPO MEDICINE誌の処方別、カテゴリー別のvirtual issueを作成

し、更新を行った。

調査研究事業

〔１〕健康保険担当委員会（担当理事：金倉洋一、副担当理事：玉嶋貞宏、委員長：大谷知穂）

１．2022年10月8日に政策提言委員会と合同委員会を開催、2023年2月9日に委員会を開催。
２．第73回学術総会シンポジウムの演題・演者・座長を検討し、演者を決定した。
３．第73回学術総会で松本吉郎日本医師会長にご講演依頼、座長を伊藤隆会長に依頼した。
４．臨床漢方医会との連携を強めることを確認した。
５．山本博司衆議院議員と面談した。
６．各支部から委員を出してもらい、地域議員の漢方への理解を深めてもらう活動を行った。
７．省令室の設置を模索した。
８．NPO法人（代表増田美加氏）と協力して、漢方保険適応維持のために、市民への漢方啓発活動を推進した。
９．会員から男性に対する加味逍遙散の算定について審査基準調査があった報告を受け、全国の審査状況の情報提供と社保の審査方針を確認し、対応を検討することとした。

〔２〕学術教育委員会（担当理事：佐藤寿一、副担当理事：髙山真、委員長：網谷真理恵）

１．2022年6月9日、8月30日、2023年1月10日、3月28日の計4回委員会を開催した。
２．情報発信事業として、第13回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会において、学会ジョイントプログラム「呼吸器疾患に用いる東洋医学（漢方・鍼灸）」を実施した（2022/6/11）。第117回日本精神神経学会学術総会で開催したシンポジウム「精神医学と漢方医学クロストーク～古典から繙く知恵、現代における漢方の役割、未来に向けた課題と展望」の発表内容を纏めた論文が精神神経学雑誌に特集「精神医学と漢方医学のクロストーク」として掲載された。第118回日本精神神経学会学術総会において、シンポジウム「漢方専門医でなくとも簡単に使いこなせる漢方薬～精神科日常臨床で漢方薬を上手に使うコツ～」を開催した（2022/6/17）。
３．大学教育支援活動として、第72回日本東洋医学会学術総会において、第3回「東洋医学」研究会・サークル交流プログラムを開催した（2022/5/29）。学生研究発表が5題あり、最優秀演題（会頭賞）を横浜薬科大学漢方薬学科に授与した。研究会・サークル活動報告が6大学よりなされ、優秀賞を崇城大学東洋医学研究会に付与した。
４．第14回日本プライマリ・ケア連合学会学術総会（2023/5/12～14）、第119回日本精神神経学会学術総会（2023/6/22～24）、第64回日本心身医学会学術講演会(2023/7/1～2)、第27回日本病院総合診療医学会（2023/8/26～27）、第121回日本内科学会（2024/4）における学会共同企画開催の準備を行った。
５．第73回日本東洋医学会学術総会における第4回「東洋医学」研究会・サークル交流プログラム開催（2023/6/18）、および日本漢方医学教育協議会との合同企画によるシンポジウム「モデル・コア・カリキュラム時代の漢方医学卒前教育」の準備を行った。
６．会員数減少対策として、学生や若手医師に対するアプローチ、その一環として学生会員の値下げを理事会で提案し、総会に諮られた結果、学生会員（大学院生以外）の会費が年額1,000円となった。
７．医師国家試験への漢方に関する問題の採用を目標とする活動を、日本漢方医学教育協議会と合同で行うこととした。

〔３〕鍼灸学術委員会（担当理事兼委員長：山岡傳一郎、副担当理事：髙山真）

１．2022 年 12 月 21 日、2023 年 2 月 2 日の計 2 回委員会を開催した。
２．鍼灸に関する座談会（ビデオ撮影記録）について第 73 回学術総会で報告することを検討した。内容は、経穴主治研究としての「明堂経復元方の紹介」とすることとした。

〔４〕ＥＢＭ委員会（担当理事：元雄良治、委員長：小暮敏明）

１．2022 年 5 月 12 日、10 月 27 日、11 月 9 日、12 月 22 日の計 4 回委員会及びメール会議を行った。

２．漢方治療エビデンスレポート EKAT Appendix 2021 を公開、EKAT 2022 構造化抄録（SA）作成、英語版 EKAT2016,Appendix 2017,Appendix 2018 公開。

３．漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン KCPG 2022 公開に向け、5 年以上前の KCPG を削除する事について継続して討議中。（3/2 現在）

４．「STORK」ホームページ JP18 の内容に更新・公開。

５．漢方製剤を含む RCT に関して、2024 年学術総会でのシンポジウム開催に向けた準備。50 症例以上の論文を抽出し IF と Google Scholar での引用回数を調べ、ベスト 4 を選定する資料を作成中。

〔５〕用語及び病名分類委員会（担当理事：星野卓之、委員長：津田篤太郎、副委員長：奥見裕邦）

１．2022 年 9 月 29 日、11 月 16 日の計 2 回委員会を開催し、さらに鍼灸関係委員のウェブ会議やメール連絡を行い、2022 年 12 月末までに ICD-11 伝統医学章の全記述の和訳を終了した。

２．2023 年 1 月 20 日付けで日本東洋医学会ホームページ会員サイトに ICD-11 伝統医学章のファイルをアップし、意見収集を開始した。メールマガジンと会報（2023 年 1 月号）で「国際疾病分類の第 11 回改訂版（ICD-11）伝統医学章の和訳に関する意見聴取について」と題した呼びかけを会員に向けて発信し、協力を要請した。日本東洋医学サミット会議(JLOM)を構成する各団体にも会員内限定で意見聴取を呼びかけ、全日本鍼灸学会では 2 月 7 日付けで開始された。

３．2022 年 5 月 13 日に mid-year 伝統医学リファレンス・グループ（TMRG; Traditional Medicine Reference Group）が、また 10 月 19 日に WHO-FIC 2022 期間中の TMRG が開催され、オンラインで ICD-11 伝統医学章の国内適用状況を報告した。

４．2022 年 5 月 27－29 日開催の第 72 回日本東洋医学会学術総会の用語及び病名分類委員会活動報告として「ICD-11 伝統医学の章の翻訳にあたって」と「鍼灸領域における ICD-11 を用いた入力システムの開発と経絡病証の日本語訳作成の現状」の 2 演題でオンライン発表した。

５．2023 年 1 月 26 日の 2022 年度日本医学会分科会用語委員会に津田委員長がオンライン出席した。

〔６〕漢方医学書籍編纂委員会（担当理事：及川哲郎、委員長：天野陽介、副委員長：新井信）

１．2022 年度 5 月 13 日、7 月 22 日、9 月 16 日、10 月 21 日、11 月 25 日、2023 年 1 月 20 日、3 月 17 日の計 7 回委員会を開催した。

２．日本語教科書『漢方医学大全』を 11 月に発刊した。

３．『漢方医学大全』の英訳版である『Complete Kampo Medicine』出版に向け、英訳版原稿作成及び Springer 社との出版契約準備を進めた。

４．『日英対照 漢方用語辞書 基本用語』の改訂作業を進めた。

〔７〕生薬原料委員会（担当理事：三谷和男、委員長：山岡傳一郎）

１．2022 年 5 月 19 日、10 月 17 日、11 月 22 日、2023 年 2 月 10 日の計 4 回委員会を開催した。

２．第 71 回学術総会における展示動画コンテンツの会員閲覧について

　有田龍太郎委員より、動画中の音楽の使用については問題がないことが述べられ、人物について、学術総会で公開することの承諾は得ているが、その他での動画の使用については確認をしていないことが述べられた。承諾が必要である為、各団体に許諾を得る手続きを行うこととした。

３．第 72 回学術総会における委員会企画　「薬用作物（生薬）の質を臨床の現場に問う」を開催した

基調講演：有田龍太郎「薬用植物栽培の調査から見えてきた課題」
提言１：川添和義「生薬の質が臨床にもたらすもの」
提言２：牧野利明「国内での薬用作物栽培の持続可能性と今後の展望」

４．第73回学術総会における委員会企画についての計画を作成した。

【テーマ】生薬国産化の中長期VISION
【座長】三谷和男、有田龍太郎
【演者】山岡傳一郎、渡辺　均、安井廣迪
＊薬用作物に対する目利き、つまり五感を育てることの重要性を再認識。
＊薬用作物を栽培する方々が意欲をもって取り組むためにできることは何か？
＊臨床の場で、煎じ薬を用いた治療効果を、学会・研究会で発表。
＊煎じ薬を使う臨床医を増やしていく努力。

５．新しい委員の追加

山中章好氏の委員就任が提案され、承認された（第２回）。
有田龍太郎氏及び高浦佳代子氏の委員就任が提案され、承認された（第３回）。

６．今後の委員会の活動方針について

1）煎じ薬、エキス製剤、生薬の現状及び保険診療について
　東洋医学会の会員の中でも、エキス製剤の構成生薬について知識が不十分な人が多いのが問題。構成生薬一味一味についての知識を持ち、方剤全体としてのベクトルを考えられるように刻み生薬を使用した効果を臨床の場で広めていきたい。

2）刻み生薬を使用したエビデンスは、エキス製剤のそれと比較して不十分である。今後は、「質の高い」「国産」生薬を用いた治療効果を、エキス剤と対比して検討していくべきである。

3）本委員会であがった問題点を学会全体に提言していくべきと考える。

4）国産生薬の生産及び国産生薬が医療現場で使用される環境を作ること、それはエンドユーザーである「医・薬」のみならず、「農」とも連携して取り組んでいくことが重要という認識をもつことができた。引き続き検討していきたい。森寛敬アドバイザーより、国産の薬用作物の栽培を増やしていく方針が継続されているが、コスト面より、煎じ薬として使用される生薬ではなく、大規模に生産できるエキス製剤の原料とされている、と指摘。

5）岡山県和気町「サンシュユの会」の報告
　山岡傳一郎委員長より、岡山県和気町「サンシュユの会」等の生薬原料の栽培地域の見学について報告がされた。今後の委員会活動には、各生薬生産現場を支援すると共に、システマティックな戦略も必要である。森寛敬アドバイザーより、企業に社有林での薬木の栽培についてアプローチを試みていることが報告された。企業への対応時、委員会メンバーの紹介をする際には、各委員の了承をもって提示する。

6）森野旧薬園春季展覧会からの協力依頼
　髙橋京子委員より森野旧薬園春季展覧会への「協力」名義使用依頼が出された。検討の結果、理事会に諮ることとし、承認された。

学術交流事業

〔１〕渉外委員会・国際担当（担当理事：伊藤美千穂、副担当理事：矢久保修嗣、委員長：髙村光幸）

１．2022年4月26日、7月5日、10月31日、12月20日、2023年2月6日の計5回委員会を開催した。

２．活動内容として、これまで同様、大韓韓医学会（SKOM）との学術交流を継続していくこと、欧州ドイツに本部のあるISJKM(International Society for Japanese Kampo Medicine)との学術交流を促進すること、国際東洋医学会（ISOM）やISCMR

（International Society for Traditional Complementary and Integrative Medicine Research）に関する情報収集や周知に加え、日本東洋医学サミット会議（JLOM）のISOやWHOにおける活動について、学会員に周知し共有する窓口となる役割を果たしていくことや、海外の伝統医学に関する情報収集体制を確立していくことを確認した。

３．第72回日本東洋医学会学術総会（2022年5月29日（日））において、本委員会の活動報告ならびに中国の現状に関する報告を行った（web開催）。

４．第72回日本東洋医学会学術総会（2022年5月29日（日））において、加味帰脾湯に関する日韓学術交流シンポジウムを開催した（web開催）。

５．2022年11月1日に行われた韓国韓医薬振興院が主管する2022 International Conference for Global Cooperation in Traditional Medicineにおいて、加味帰脾湯に関する大韓韓医学会主催の韓日シンポジウムをサポートした（web開催）。

６．ISJKMの学術シンポジウムが2022年9月に開催される予定で運営のサポートを行ったが、新型コロナウイルス流行、またウクライナ情勢に伴う世界情勢に伴い、延期になったため、その対応を行った。

７．SKOMとの連携を円滑化するため、担当委員が2022年5月にオンライン会合を行った。

８．日本東洋医学会初の国際シンポジウムとして開催された第1回 漢方医学国際シンポジウム（2022年8月26日(金) ～ 8月27日(土)）の準備委員として、渉外委員会国際担当として参画した。

〔２〕渉外委員会・国内担当（担当理事：矢久保修嗣、委員長：野上達也）

１．2022年4月5日、5月11日、9月25日の3回委員会を開催した。

２．漢方診療におけるKAMPO IT化に関して、問診票のデジタル化をしていくための用語整備をするため方策や、漢方診断のフレームワークなどに関する検討を行った。

学術総会・支部事業等

〔１〕第72回学術総会（会頭：八重樫稔、準備委員長：佐野敬夫）

１．2022年5月27日（金）、28日（土）、29日（日）の3日間に亘り、八重樫稔会頭のもと、学術総会をライブ配信及びオンデマンド配信にて開催した。参加者は2,796名。

〔２〕第1回漢方医学国際シンポジウム（会頭：伊藤隆、準備委員長：並木隆雄、伊藤美千穂、若山育郎）

１．2022年8月26日（金）・27日（土）の2日間はオンライン配信、2022年11月30日（水）まではオンデマンド配信にて開催した。参加者は335名。

〔３〕支部事業

１．全国８つの支部において支部総会及び都道府県部会（学術講演会）を開催した。

認定事業

〔１〕専門医制度委員会（担当理事：柴原直利、委員長：貝沼茂三郎、副委員長：栗山一道・若山育郎）

１．2022 年 4 月 10 日、6 月 17 日、7 月 28 日、8 月 20 日、2023 年 1 月 29 日、3 月 18 日の計 6 回委員会及びメール会議を開催した。

２．2022 年度専門医試験を 11 月 20 日に行い、第一次審査免除者 2 名を含む 82 名が受験し、61 名を合格とした。

３．2022 年度認定医試験を 11 月 20 日に行い、5 名が受験し 5 名を合格とした。

４．漢方専門医更新対象者 271 名の内、更新要件を満たす 211 名の更新を認可した。

５．認定医更新対象者 49 名の内、更新要件を満たす 29 名の更新を認可した。

６．研修施設及び指導医の審査・委嘱を実施し、その整備充実を図った。

７．各地区において教育事業を開催した。

８．第 72 回学術総会において指導医講習会、専攻医のための説明会、医療倫理・医療安全講習会を実施した。

９．ｅラーニングのコンテンツとして医療倫理・医療安全講習会の動画を公開し、専門医・認定医更新や受験の際の更新点数および受験単位とした。
10. 専門医通信を２回発行した。
11. 学会ホームページに掲載している専門医情報の整備を図った。
12. 一般社団法人日本専門医機構へのサブスペシャルティ領域としての申請に向けて、研修プログラムを整備して研修システムの充実を図り、研修施設の整備・充実を図った。
13. 専攻医登録のシステム化を進めた。
14. 「問題と解説」を改訂し、発刊した。
15. 日本専門医機構への対応を引き続き検討した。

管理事業

〔１〕運営委員会（企画担当理事兼委員長：山田和男、財務担当理事：小菅孝明）

１．2022年5月9日、6月27日、8月29日、11月21日、2023年2月13日、3月13日の計6回の委員会、及びCOVID-19に関する研究のための特別ワーキンググループを開催した。
２．2023年度予算を纏め、理事会に上程した。
３．2022年度決算を纏める作業を行った。
４．2022年度補正予算案を纏め、理事会に上程した。
５．第74回定時社員総会に推挙する名誉会員について審議し、理事会に上程した。
６．第74回定時社員総会の開催について審議し、理事会に上程した。
７．定款の一部改定案（学生会員の追加、理事定員の増員、常務理事の増員）について審議し、理事会に上程した。
８．入会金及び会費に関する細則、入会審査基準、入会審査基準運用マニュアルの一部改定案について審議し、理事会に上程した。
９．メールマガジン運用管理規程の一部改定案について審議し、理事会に上程した。
10. 支部・都道府県部会におけるランチョンセミナー等の企業との共催に対する審査内規の一部改定案について審議し、理事会に上程した。
11. 名誉会員推挙内規の一部改正案について審議し、理事会に上程した。
12. 個人情報管理規程の一部改定案について審議し、理事会に上程した。
13. 学術総会の情報発信のためのTwitter・Facebook等の使用について審議し、理事会に上程した。
14. 会員数減少対策について検討した。
15. 会報のＷＥＢ化について審議し、理事会に上程した。
16. 第31回日本医学会総会奨励賞候補者の募集と選定を行い、理事会に推薦した。
17. 第31回日本医学会総会分科会／加盟学会展示への参加について審議し、理事会に上程した。
18. 第31回日本医学会総会展示ポスターを作成し、理事会に上程した。
19. manaableの継続利用について審議し、理事会に上程した。
20. 他団体からの依頼を検討し、理事会に上程した。
21. 理事会からの諮問事項について検討した。

〔２〕広報委員会　（担当理事兼委員長：八重樫稔）

１．2022年6月30日、8月9日、12月23日、2023年3月30日の計4回委員会及びメール会議を開催した。
２．ホームページのアクセスの動向について解析を行った。
３．ホームページの掲載依頼について検討し、実施した。
４．メールマガジンの配信について検討し、実施した。

〔３〕倫理委員会（担当理事兼委員長：木村容子）

１．委員会は、開催されなかった。

〔４〕利益相反（COI）委員会（担当理事：髙山真、委員長：小野孝彦）

１．2022年7月3日にメール会議を開催した。
２．日本医学会からの情報を定期的に確認し、必要に応じて対応を検討した。

〔５〕コンプライアンス委員会（担当理事兼委員長：久永明人）

１．2023年3月3日に委員会を開催した。
２．二重投稿（発表）の指摘がなされた件について審議し，理事会に審議事項として上程した。
３．岡山県部会会計問題について審議し，理事会に審議事項として上程した。
４．不正が疑われる論文について審議した。

〔６〕医療安全委員会（担当理事：田原英一、委員長：地野充時）

１．2022年7月20日に委員会を開催した。
２．副作用情報に関する動画を準備した。今後ホームページ上で公開を要請する。
３．漢方薬ポリファーマシーの実態調査を行うため、全国レセプトデータへのアクセスを依頼した。

〔７〕政策提言委員会（担当理事兼委員長：玉嶋貞宏、副担当理事：金倉洋一）

１．2022年10月8日に健康保険担当委員会と合同委員会を開催した。
２．第72回学術総会において、フレイルに対する漢方治療のエビデンス構築に向けてのシンポジウムを開催し、評価スケールなどについて検討した。

〔８〕定期刊行物（担当理事：久永明人）

１．会報を2022年4月、7月、10月、2023年1月の年4回発行した。

事業報告附属明細書

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する事業報告の附属明細書として記載するべき「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。